



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

# 今成小だより



令和5年6月1日発行

## 「自ら学ぶ力」を伸ばすために

次の1万円札の肖像画は埼玉県出身の偉人、渋沢栄一さんに決まっています。新紙幣の発行は来年上半期になる予定とのことです。それまでは右の福沢諭吉さんですね。著書『学問のすゝめ』では、当時、日本より大幅に進歩している欧米を自らの目で見て、「学問こそがこの差を埋める方法」と考え、生涯を通じてその志を果たそうとされました。

ところで、ここでの「学問」とは何を意味するのでしょうか。それは、テストの点数などの学習の結果だけではなく、**学んだことを実生活や社会の中で活用すること**を指しています。今から150年も前に著されたものですが、現代にも通じる貴重な示唆であると感じます。

本校でも、日々の学びが将来につながることを視野に教育活動を進めています。例えば「自ら考える力」の育成に向けて、学校全体で「**問題解決的な学習**」\*を推進しています。今年度も、課題について自分なりに真剣に考えノートに表現したり、複数の視点から友達と話し合ったりする様子が見られ、子どもたちには「自ら考える力」の素地が着実に育ってきていると感じています。



「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり。」  
「賢人と愚人と別は學ぶと學ばざるとに由て出来るものなり。」

1872年(明治5年)  
「学問のすゝめ初編」より

### \*「問題解決的な学習」とは？

- 学習指導要領で示されている学習の進め方です。本校では、**【問題】-【課題】-【作戦(計画)】-【考え(自力解決)】-【話し合い】-【まとめ】-【振り返り】**という学習過程で進めています。特に「自力解決」では、自分の中に既にある知識と関連付けて問題解決を図るので、理解が深まりやすいとされています。
- 授業参観などでお子さんがしばらくの間、じっくりと考えている場面をご覧になったことがあると思います。自分の力だけでじっくりと考える「あの場面」で、実は脳が盛んに働いているのです。
- 1つのやり方で解決できたら、2つめ、3つめと進めます。図や式、言葉など駆使してノートに考えを記述します。その後、自分の考えをもとに、グループや学級全体で話し合うことでさらに考えが深まっていきます。

今後もこのような取組を積極的に推進し、一人一人の思考力や表現力の向上を目指していきます。また、子どもたちの「自ら学ぶ力」を伸ばすために、他にも「コース選択学習」「教科担任制(一部)」など学年の実情に応じて実践中です。

日々の学びを充実させることで、子どもたちの夢や可能性はさらに広がっていくと期待しています。子どもたちの学習面について、引き続き各ご家庭のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす